

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	岐阜市立恵光学園			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 5日		～	2024年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数)	11人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 5日		～	2024年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	3人
○訪問先施設評価実施期間	2024年 12月 5日		～	2024年 12月 25日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	12カ所	(回答数)	12カ所
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門性のある組織体制	・児童発達支援管理責任者、3名の訪問員、相談支援専門員に加え、心理職を含むチーム体制の下、定期的な会議でお子さまの状況を把握し、成長や変化によりあった支援方法について検討している。	・心理職が訪問に同行したり、発達検査を行い、その子の特性や行動を分析し、訪問先施設へ提案していく。
2	・訪問員の豊富な経験、療育のノウハウの蓄積	・お子さまが困り感のある場面で直接的に支援を行ってみせ、訪問先職員にその方法について助言を行っている。	・集団生活の場における環境等を調整することで、訪問先施設のお子さまたちと共に成長できるよう支援していく。
3	・保護者との連携	・訪問日の療育ノートや、必要に応じて電話や面談を行ってお子さまの状況を共有したり相談を受けたりしている。	・訪問先施設の思いも汲みながら、保護者との仲立ちをし、お子さまと保護者の安心感や信頼感につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用二一ズの増加への対応	・長期訪問支援員の交代がないため、経験豊富であるが、新規職員の育成を行っていない。	・地域支援事業に通所支援の職員を巻き込むことで、訪問支援事業の理解を深めた職員を増やし、訪問員の育成につなげていく。
2	・就学への橋渡し	・学校訪問を行っておらず、年長児の年度末に支援を終了している。	・訪問先施設と保護者の希望に応じて就学先の引き継ぎ会に参加し、個別で把握しているお子さまの姿や必要な支援を伝える。 ・就学する際に、保護者や就学先と相談しながら学校への訪問支援を行い、学校生活へのスムーズな適応を支援していく。
3	・保護者への情報提供	・保護者に対する情報提供は、在籍している主たる施設が中心に行っていた。	・発達や子育てに関する情報や研修案内等を保護者に提供していく。